

令和2年度 栄区セーフコミュニティ 傷害サーベイランス分科会

日時:令和3年3月 12 日(金) 14 時から 15 時まで

【1】令和2年度 分科会間の連携状況について（報告） <資料1>

【2】令和2年度 セーフコミュニティアンケート集計結果について（報告）
<資料2>

【3】その他

添付資料 セーフコミュニティアンケート結果報告書

■令和2年度 傷害サーベイランス分科会

役職	氏名	職位	出欠等
座長	田高 悦子	横浜市立大学大学院医学研究科・ 医学部地域看護学教室教授	出席 (オンライン)
委員	大原 一興	横浜国立大学大学院都市イノベーション研究院教授	欠席
	小田原 俊成	横浜市立大学学術院医学群教授 横浜市立大学保健管理センター長	出席 (オンライン)
	豊田 宗裕	聖徳大学社会福祉学科教授	出席 (オンライン)
	垣内 康宏	近畿大学医学部法医学教室准教授	出席 (オンライン)
	金子 寛平	栄消防署救急担当課長	欠席
	滝川 裕章	栄警察署交通課長 (アドバイザー)	出席 (会場) ※1名
	平間 健一	栄警察署交通総務係長	
	小川 健司	栄警察署生活安全課長 (アドバイザー)	出席 (会場)
	青木 匡史	栄区福祉保健センター長	欠席
-	富士田 学	栄区長	出席 (会場)
事務局	永松 弘至	栄区役所区政推進課長	出席 (会場)
	高橋 百合子	栄区役所区政推進課地域力推進担当係長	出席 (会場)
	臺丸 寿子	栄区役所区政推進課地域力推進担当	出席 (会場)

令和3年3月12日
傷害サーベイランス分科会
栄区役所

令和2年度 分科会間の連携状況について（報告）

平成30年度に実施した現地審査において、審査員より今後の課題として指摘のあった、分科会同士が連携した取組の実施状況を報告します。

1 セーフコミュニティ連絡帳

主体	こども安全対策分科会
概要	一般的な内容に加え、こども安全対策分科会で普及に取り組むKYT（危険予知トレーニング）のイラストや、セーフコミュニティの取組分野に関連した子ども向けのコラムを掲載した連絡帳を制作 配布対象者：区内市立小学校の生徒全員 配布時期：令和3年4月
連携先	全ての分科会
連携した内容	コラムの記事を各分科会から提供



↑各頁の下部に異なる記事が載っています

2 栄防災ノート

主体	災害安全対策分科会
概要	防災に役立つ情報の他、利用者が自ら書き込んでいくことで、備蓄や家具の固定、避難場所の確認等災害時の備えができる冊子を制作し配布を開始 配布対象者：広く一般区民 配布方法：地域防災拠点で配布、区内各所に配架等
連携先	高齢者安全対策分科会
連携した内容	主な対象を高齢者に設定していることから、高齢者が読みやすい記事内容やレイアウトになるよう助言を受ける。



令和2年度 セーフコミュニティアンケート集計結果について

令和2年11月に実施した栄区セーフコミュニティアンケート調査について、集計結果がまとまりましたので概要をお知らせします。詳細については報告書をご覧ください。

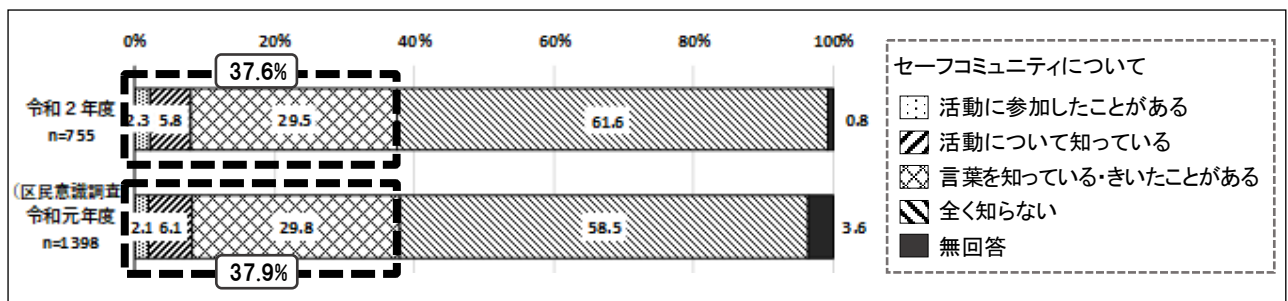
1 調査の概要

- 調査対象：栄区内に居住する20歳以上の方1,500人（住民基本台帳からの無作為抽出）
- 調査期間：令和2年11月4日（水）～25日（水）
- 調査方法：郵送配布・郵送回収 ■ 回答数：755（回答率50.3%）
- 報告書：栄区HPに掲載しています。（「栄区 セーフコミュニティアンケート」で検索）
<https://www.city.yokohama.lg.jp/sakae/kusei/tokei/chosa/scanke-to.html>

2 集計結果概要

（1）セーフコミュニティの認知度

「活動に参加したことがある」、「活動について知っている」、「言葉を知っている・きいたことがある」という回答を合計した **認知度は37.6%** でした。昨年度の栄区民意調査の37.9%との差は0.3ポイントで、ほぼ横ばいという結果でした。

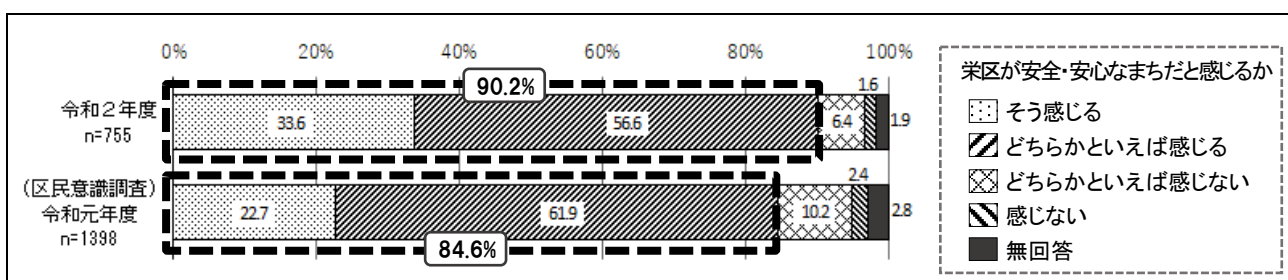


（参考：認知度の推移）

H25	H26	H27	H28	H29	H30	R 1	R 2
11.3%	21.9%	19.9%	40.9%	38.1%	34.8%	37.9%	37.6%

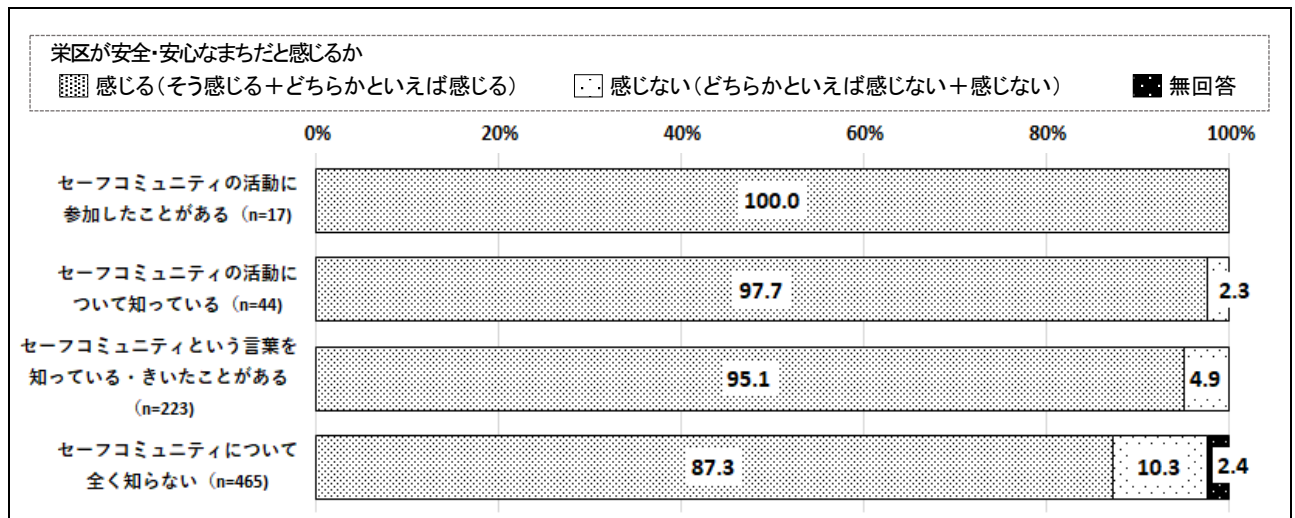
（2-1）「安全・安心なまち」だという実感

栄区が安全・安心なまちだと感じるかどうかについて「そう感じる」、「どちらかといえば感じる」と回答した方の合計は **90.2%** となり、昨年度の栄区民意調査の84.6%を5.6ポイント上回る結果となりました。



(2-2) 認知度と「安全・安心なまち」だという実感との相関

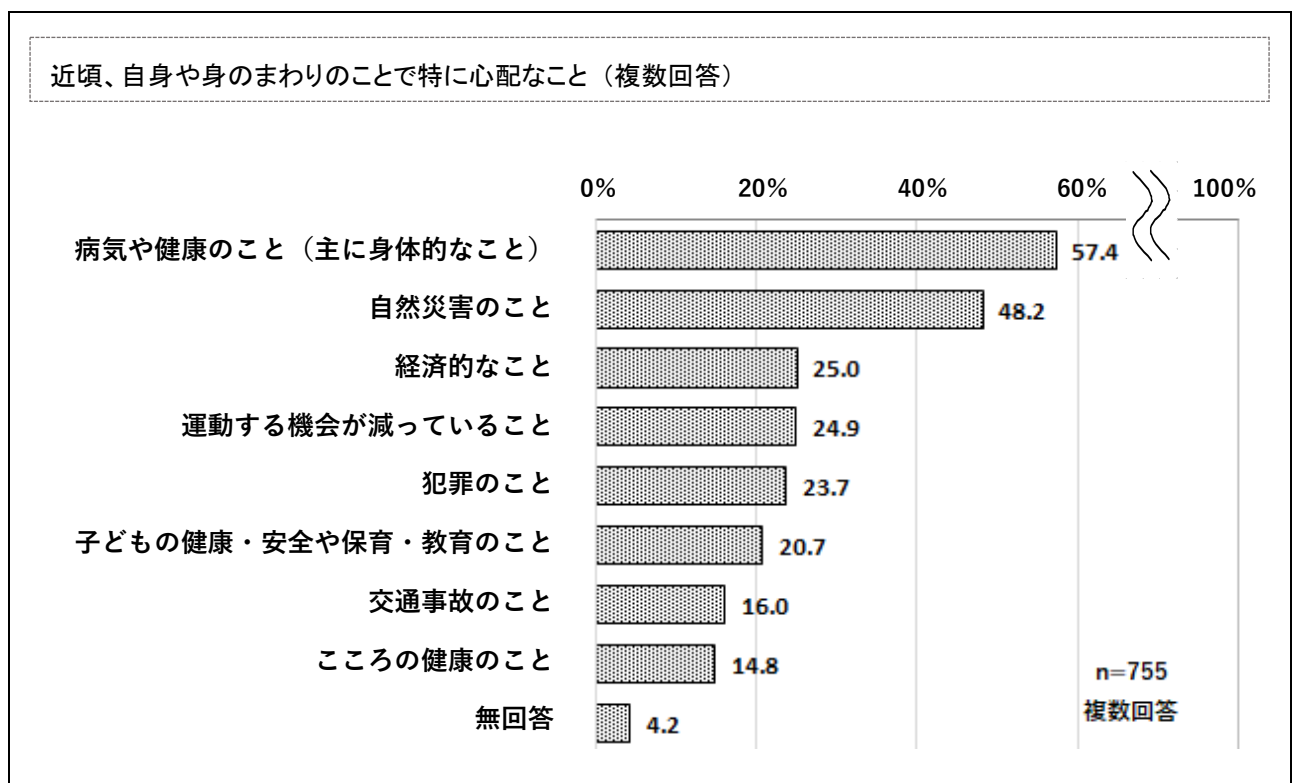
「セーフコミュニティについて全く知らない」方よりも、何らかの形でセーフコミュニティを知っているの方が、栄区は安全・安心なまちだと感じている割合が高いという結果になりました。



(3) 身のまわりの心配なこと

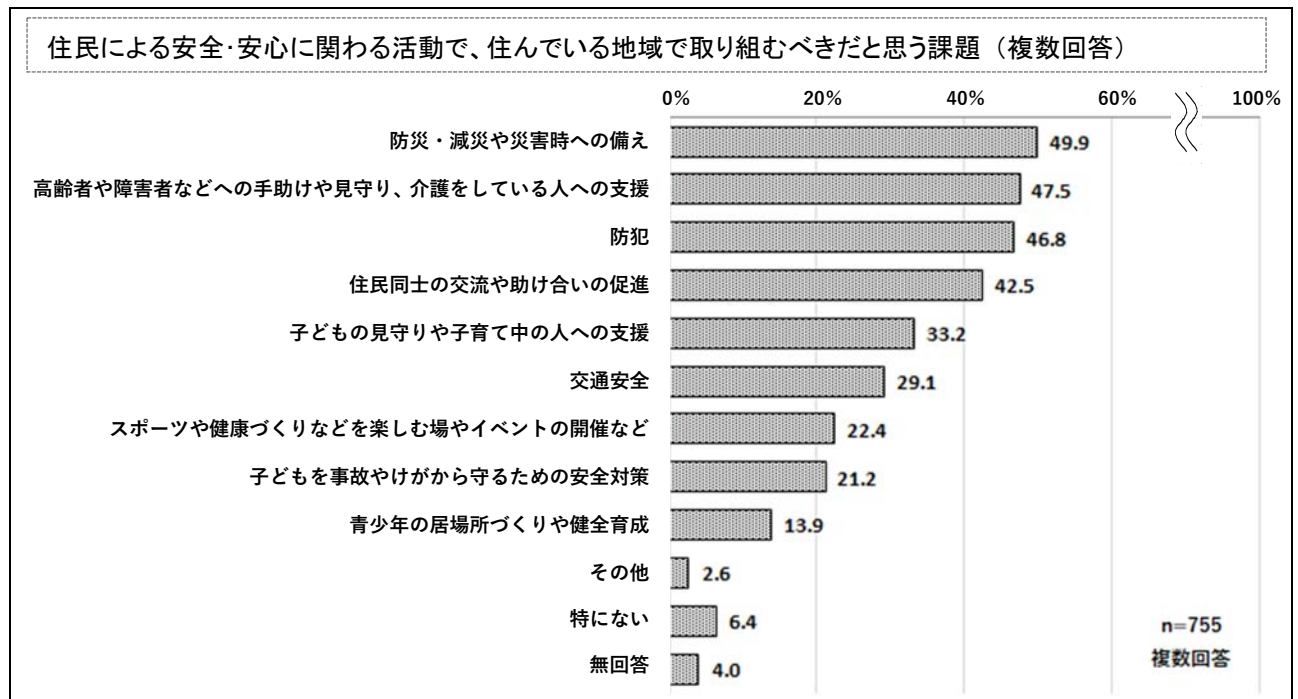
最も多かったのは「病気や健康のこと」で、約6割の方が心配なこととして挙げました。

その他には、約半分に当たる48.2%の方が「自然災害のこと」、約4分の1の方が「経済的なこと」「運動する機会が減っていること」「犯罪のこと」が心配であると回答しました。



(4) 地域で取り組むべき、安全・安心に関わる地域活動

「防災・減災や災害時への備え」(49.9%)、「高齢者や障害者などへの手助けや見守り、介護をしている人への支援」(47.5%)、「防犯」(46.8%)を約半数の方が挙げました。



(5) 参加したいセーフコミュニティの取組

「運動不足解消のためのウォーキング」(33.2%)が最も多く、次いで「高齢者への転倒予防講座」(24.8%)、「地域防災拠点等での実践的な訓練」(20.9%)の順に参加意向が高いという結果になりました。

